

教 科	国 語	学 年	1 年
-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

- (1) 社会生活に必要な 国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする
- (3) 言葉がもつ価値に 気付くとともに、進んで読書をし、我が 国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

- ・国語 1（光村図書） 光村の国語のワーク（光村教育図書）
- ・よくわかる国語の学習 1 年（明治図書） 国語の積み上げ 1（明治図書）
- ・一斉授業
- ・20 時間程度の書写活動（硬筆を含む）を行う。

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の言語事項・古典文学・メディアリテラシーについて、その特質を理解し適切に使っている。	◇定期考査 ◇漢字テスト ◇宿題・ノート等の提出物 ◇書写作品等の提出物 ◇調べ学習等の課題 ◇文法テスト
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、文章や資料を読み解き、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	◇定期考査 ◇スピーチ ◇聞き取りテスト・ディベート ◇授業態度（発言を含む） ◇提出物の内容
主体的に学習に取り組む態度	授業を大切にし、言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えまとめたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。	◇授業へ積極的に取り組む態度（話し合い活動、発言等） ◇授業のふり返し◇暗誦テスト ◇調べ学習等の課題 ◇宿題・ノート等の提出物

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業でノートをしっかり考えて書くこと。
- 授業の基本として、先生の話をよく聞き、自分の考えを持つこと。
- 発言や発表に進んで参加すること。
- 提出物は期限を守って提出すること。
- 定期考査の前には、教科書を繰り返し読むことを基本として、自分のノートと照らし合わせ、授業の流れを確認する学習を行う。ワーク等、問題集を繰り返し学習する。

【家庭学習の進め方】

- ①一番大切なことは、学校の授業だと理解する。特に、心情把握は、根拠に基づいたものになるので、授業中での解説などの話をまとめてメモするなどの工夫を授業で行っておくこと。
- ②予習は、教科書を読んだり、ワークをやってみたりする。また、調べ学習を進める。復習は授業内容の確認をする。ノートを見ながら、どのようにして読解が進められたかを確認し、ワークを進める。
- ③社会的な事象に興味を持ち、その中で持続可能な開発ゴールを考えること。
- ④積極的に読書する。また、資料やネット売買契約の同意書に目を通す練習をすると力がつく。また、新聞のコラムなどを読むことからはじめ、それが定着したら、そのコラムに対して、自分の考えをまとめ、短文を書く練習をするとさらによい。

【年間指導計画（国語 1 4 0 時間）】

月	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	35+ 10 書写	《1》学びをひらく 「はじまりの風」 漢字1 言葉1 季節のしおり	詩を朗読し情景をとらえる。朗読の練習・発表 行動描写から心情をとらえる。話し言葉書き言葉部首 毛筆・硬筆	作品を読み気に入った詩を選び、工夫しながら朗読して読む。 少年の心情を考え、変化をとらえる。 話し言葉と書き言葉の違いについて理解する。
5		《6》いにしえの心にふれる 「いろは歌」C 「古典の世界」 「蓬莱の玉の枝」 「今に生きる言葉」	「いろは歌」を音読し、口語訳と比べ読みする。 歴史的仮名遣いに注意して読む 漢文、故事成語	漢字に興味を持って取り組む。 文章古典に興味をもち、音読する。 物語の文脈に即した意味を的確に捉える 古典特有のリズムを味わい、理解する 独特の言い回しに注意しながら漢文を音読する。
6		《2》新しい視点へ 「ダイコンは大きな根？」 「ちょっと立ち止まって」 「情報の集め方を知ろう」A	段落の役割に着目して読む 文章と図の関連や段落と段落の役割を考えて読む 情報の集め方	基本的な筆使い 筆順、字形 字形を整えて書く。に述べられているものの見方や考え方を理解する 目的に応じた情報の集め方を知る 必要な情報を取捨選択する 詩に親しみ、詩の表現について理解する 観点を立てて言葉を集め、表現する 構成や事例の述べ方について理解する 言葉の単位について理解する
7		好きなものを紹介しよう 《3》言葉をつなぐ 「詩の世界」 「比喻で広がる言葉の世界」 「言葉を集めよう」 文法への扉 季節のしおり ◎読書生活を豊かに 書写「硬筆」	音読、詩の表現 伝わる表現 文章の構成 言葉のまとまり 本の世界を広げる	必要な情報を取捨選択する 詩に親しみ、詩の表現について理解する 観点を立てて言葉を集め、表現する 構成や事例の述べ方について理解する 言葉の単位について理解する さまざまな作品を読み、ものの見方や考え方を広げる
9		◎弁論作文 《4》つながりの中で 「星の花が降るころに」 「大人になれなかった弟たちに……」 漢字2 言葉2 「聞き上手になろう」 「項目を立てて書こう」 「推敲の」読み手の立場に立つ ◎書写 書き初め	主張文を書く 弁論発表会 情景や心情の変化をとらえ、話し合う。 漢字の音訓 指示する語句と接続する語句 記録の文章 図表の役割 レポート作成 毛筆による字形・構成	構成を工夫しながら弁論作文を書く。 根拠を明らかにし、自分の意見を伝える。 情景や心情の変化を読み取る。作者の思いをとらえる。登場人物の行動や情景描写を読み取る。 漢字の音訓について理解する 指示する語句や接続する語句の働きについて理解する。 全体の論理展開を捉え、図表の役割等について理解する
10	40	《5》筋道を立てて 「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」 話題や方向を捉えて話し合おう 根拠を示して説明しようESD	事実と意見を読み分ける グループ・ディスカッション 鑑賞文を書く 教室ディベート	文章を読み、目的に応じて要約をしたり要旨をとらえたりする。 話し合いを通して自分の考えを広げる。 観点を立てて鑑賞し、読み手に分かりやすい鑑賞文を書く 詩の表現について理解する 場面展開や人物の描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりを読み取る。 漢字の成り立ちを理解する。 表現の工夫、分かりやすく書く 単語の分類について理解する。
11		《7》価値を見いだす 『不便』の価値を見つめ直す 《8》自分を見つめる 「少年の日の思い出」 随筆二編 言葉3 漢字3 印象深く思いを伝えよう 文法への扉3 一年間の学びを振り返ろう ◎百人一首C	鑑賞文を書く 構成、登場人物の生き方 心情の移り変わり 音読・随筆の表現 現技法 漢字の成り立ち 新入生へメッセージを書く 単語の性質 詩の表現技法 百人一首 和歌について	詩の表現について理解する 場面展開や人物の描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりを読み取る。 漢字の成り立ちを理解する。 表現の工夫、分かりやすく書く 単語の分類について理解する。 詩の表現技法について理解する 古典の興味を深める
12				